上西校区史 執筆開始

上西だより

～上西校区集落支援員だより～

西之表市地域支援課
上西集落支援員
馬場 信一　編集
連絡先090－9579-3953
上西校区長責任発行

昨年の第２回区議会で上西小学校創立150周年記念誌「（仮）上西の歴史」を編集することが決まりました。その後の会合で、もっと親しみやすい名称にしようと意見を出し合った結果、**『ふるさと上西今昔～伊勢暦～』**になりました。

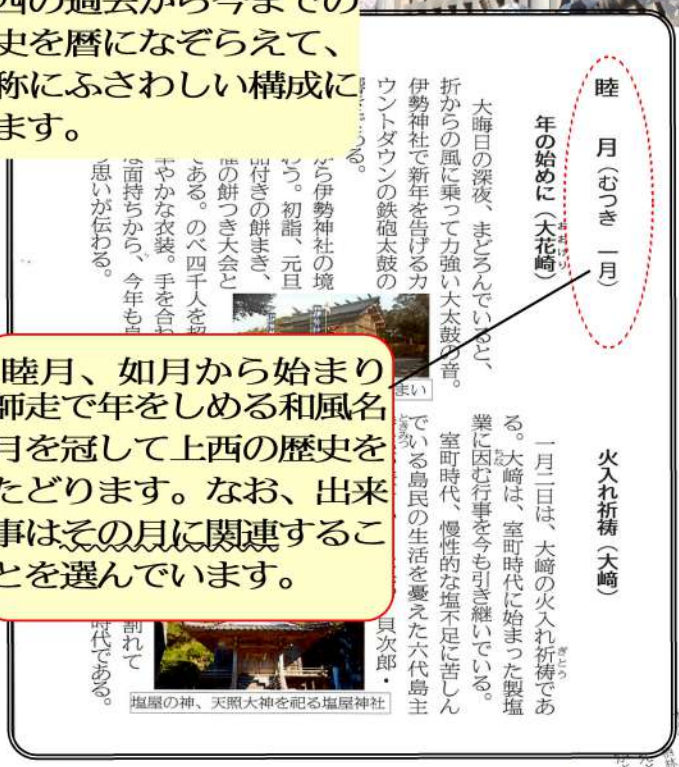
『伊勢暦』の**「伊勢」**はもちろん、校区のシンボル伊勢神社のことを表しています。

写真は伊勢神社
2021年2 月16日
撮影

『伊勢暦』の「暦」は上西の過去から今までの歴史を暦になぞらえて、名称にふさわしい構成にします。

「はしがき」には『伊勢暦』にこめた思いを端的に記しました。
↓「はしがき」より抜粋

（略）過去からこれまでに至る生活の営みを春夏秋冬暦の流れに沿って編むという意図を込めた。
上西の人々がかつてどんな思いで、どのような生活や生業をしてきたのか（以下略）



睦月（むつき）一月

年の始めに（大花崎）

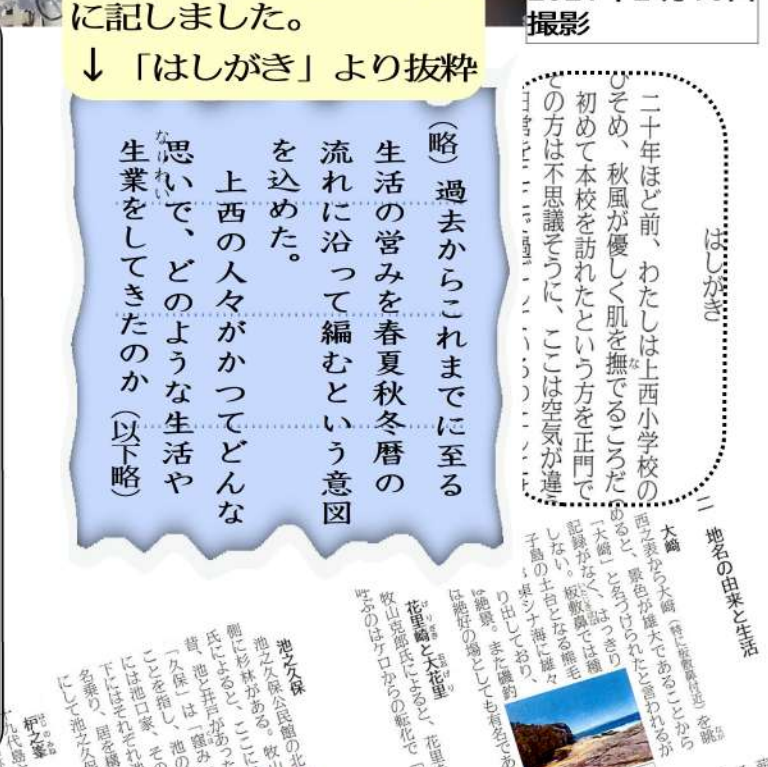
大晦日の深夜、まどろんでいると、折からの風に乗って力強い大太鼓の音。伊勢神社で新年を告げるカウントダウンの鉄砲太鼓の

火入れ祈祷（大崎）

一月二日は、大崎の火入れ祈祷である。大崎は、室町時代に始まった製塩業に因む行事を今も引き継いでいる。室町時代、慢性的な塩不足に苦しんでいる島民の生活を憂えた六代島主貝次郎・

塩屋の神、天照大神を祀る塩屋神社

睦月、如月から始まり師走で年をしめる和風名月を冠して上西の歴史をたどります。なお、出来事はその月に関連することを選んでいます。



はしがき

二十年ほど前、わたしは上西小学校のひそめ、秋風が優しく肌を撫でるころだ初めて本校を訪れたという方を正門での方は不思議そうに、ここは空気が違

地名の由来と生活

大崎

西之表から大崎（特に板敷鼻付近）を眺めると、景色が雄大であることからは「大崎」と名づけられたと言われるが記録がなく、はっきりしない。板敷鼻では種子島の土台となる黒毛

石舞台を思わせる板敷鼻

花里崎と大花里

牧山克郎氏によると、花里をゲリとふのはゲロからの転化で「ゲロとは

池之久保

池之久保公民館の北側に杉林がある。牧山氏によると、ここには昔、池と井戸があった。「久保」は「窪み」のことを指し、池の周辺には池口家、その上と下にはそれぞれ池上家、池下家が姓を名乗り、居を構えている。ここを中心にして池之久保集落は広がったという。

池之久保　発祥の地

柘之家

六代島主種子島久基（一六六四～一七

さき、製鹽所（ロウソク

があったことから地名

六つの集落名の由来とそれにまつわることを紹介しています。

と言われている。昔はこの半ばかりで実の収穫が四もいた。久基は薩摩藩の家老職を務めながら、種子島の産業振興に尽力した。

横山

横山から始まる川の一つであり、川の恩みによる人によると、横山集落の ないかと ゆっくり

花里崎のケーキ

狭い平地の薪などを採る共有地の管見であるという。

の管見であるという。

花里方面は東側から畑の面積は確かに広いと成島山が迫っており、田はいえない。山間に田んぼがあり、西側の景遠二八一号線沿いの畑には春秋には色鮮やかな花々が栽培され、均市を巡るコースの一つである。

大花里には伊勢神社、上西小学校、消防分団、区長事務所、きほう館など区民の生活に必要な施設が集まっている。

来年の秋に発行予定です。編集の途中経過を時折、上西だよりで紹介します。